

十島村教育委員会だより 平成30年11月号

せわやがトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

11月・・・村民文化祭

十島村教育長 有村 孝一

11月3日に文化の祭典「セブンアイランド2018」(村民文化祭)が開催されました。見終わった瞬間感動の余韻がずっとさめませんでした。平成2年に文化の祭典「セブンアイランド90」を中之島で開催しました。それから28年の月日が流れました。この日は、居ながらにしてすべての島の伝統芸能等を見ることが出来る幸せを感じることが出来ました。

オープニングは、宝島のステイールドラムでした。大変澄んだ音で、子どもたちもよく頑張りました。23年前に始めた島おこしへの取組がうまくいっていると思えました。会を盛り上げるきっかけを作っていました。



中之島は「御岳太鼓」でした。結成から10年。年々、子どもたちの「ばち」さばきも上達してきています。港などで歓迎や見送りそして様々な行事での演奏など、今ではなくてはならないものとなってきました。



諏訪之瀬島は八月踊りでした。奄美大島に伝わる踊りで、奄美から来られた方々の思いを今に伝えておられるということに大変に心を打たれました。そして、島の一体感を感じさせる歌声でした。私も今年、諏訪之瀬島でアラセツとシバサシの行事に参加して、より身近に感じられました。



平島は「福德神」でした。平家の名残が色濃く感じられ、長きにわたって先人達の思いを脈々と伝える熱意に感銘を受けました。歌われています数え歌は、口伝により歌い続けられていくということでした。凄いいことにも力を入れている必要性を感じました。



悪石島は「ボゼ」でした。やはりなんといっても盆踊りの後で出現するボゼは強烈です。仮面神ボゼは、ニューギニアの仮装神に似ているとも言われます。遠い昔、琉球よりさらに南の島々との交流もあったことを伺わせてくれます。今月28日に予定されています。ユネスコの政府間会議においてユネスコの無形文化遺産に登録される予定になっています。今から発表が楽しみです。



小宝島は「としま今昔」のDVDの放映でした。日本で最後までしげが使われていた頃的小宝島の様子が紹介されました。私も「はしげ」の経験をしたことがありますが、そこでの作業は、たいへん危険が伴う共同作業であったと思います。懐かしくご覧になられた方もたくさんおられたことと思います。



最後は口之島の「盆踊り」と「狂言」でした。何かこの会場が戦国時代にタイムスリップしたかのような感覚になりました。武士の心意気が今もなお受け継がれていることに感動しました。



狂言については、口伝で、何年も受け継がれてきているということに、改めて驚くものであります。文化は人が生み出すものです。先人が、そこでどんな生活をし、何を考え、どんな人々と交流したのか、そこから文化が生まれます。同じ十島村でも島が違えば、文化が違います。

そういう人々から生まれた文化だからこそ、貴重であり尊いのだと思います。そして島々の伝統芸能を観ながら、遠い先人たちの生き方に思いを馳せることでした。トカラの歴史を肌で感じながら、この素晴らしい伝統を綿々と受け継いでいるトカラの人々が、誇らしくさえ見えてきました。

「フェリーとしま2」の就航を記念して開催された「村民文化祭」でした。村民の思いをかなえ、村民のための船です。就航を祝うと共にこれからも大切に乗りつづけていただきたいと思えます。

今後は、「島間の連携を一層深め、村としての連携をどう高めていくか」ということが重要な事ではないか」という村長の開会の言葉にもありましたように、このような機会を重ねていくことによつてそのことは、可能になっていくのではないかと思います。「十島のうた」の3番の歌詞に、「島の文化の朝が来る」とあります。まさに、文化祭がそれだったのかもしれない。



祝 県入賞「学校新聞コンクール」
2席：口之島小中「タモトユリ」
佳作：小宝島小中「うね神」
宝島小中「メイメイ」

かわいい子馬(トカラ馬)が6頭 中之島で産まれたよ~!

十島村の児童生徒から募集しました。全頭に名前がつけましたので紹介します。

名前・生年月日	学校名	理由
1 のぞみ(メス) 5/11生	口之島	希望を持って楽しく生活してほしい。
2 ポップ(メス) 5/1生	諏訪之瀬島	毎日元気にはじけるように過ごしてほしい
3 風馬(ふうま)(オス) 5/14生	平島	元気にすくすく育てて欲しい、人間の名前みたいにした。
4 プリン(メス) 5/12生	悪石島	父親の名前がみりん、母親の名前がマリンなので、「リン」が入った名前がかわいくてほんわりとした雰囲気の名前を付けたいと考えていた。pretty(可愛い)の頭文字の「プ」を付け、お父さんお母さんに似て可愛い馬という理由で「プリン」になった。
5 飛翔(ひしょう)(オス) 6/10生	小宝島	トカラ列島を駆け抜け世界に羽ばたいてほしい。世界にトカラ列島の事を発信してほしいという希望を込めた。
6 ミルク(メス) 5/20生	宝島	父親、母親の馬の名前が調味料の名前だったから子馬にふさわしい食品の名前にした



シリーズ——新聞に投稿1(平成30年10/21)
南日本新聞「若い目」
中之島小4年 小原澤 稔理

点字のはじまり

みなさん、点字のことを知っていますか。点が6こある点字は1825年から、目の不自由な人たちのために使われています。

6この点の点字を発明した人は、ルイ・ブライユです。ルイは、3さいのころにナイフでかた方の目を失いました。そして5さいのときにびょう気で、もうかた方の目を失いました。両方の目を失ったルイは、もう学校に通いにくかった。そこで12この点がある点字は、もともとの暗いところでのたまたかのときの命れいで使われていました。それをもとに、ルイは6この点字を考えました。

日本では、石川倉次が点字を使えるようにしました。1890(明治23)年11月1日に日本語の点字を使えるようにしました。だから、11月1日は「点字記念日」になりました。点字は、かんピールのふたやエレベーターのボタンにも使われています。

これまで、点字のことを全然知りませんでした。みんなにも点字のよさをつたえたいです。



「来訪神：仮装・仮面の神々」**悪石島のボゼ**
ユネスコ無形文化遺産登録へ勸告される！
正式発表は、11月28日ごろと予想されます。

シリーズ——十島村で学ぶ
悪石島中2年 西 えほん

「みんなを引っ張っていけるように」

「団長として頑張りますので、よろしくお祈りします。」長かった夏休みもあっという間に終わり、2学期がやってきました。それと同時に始まったのが、運動会の練習です。運動会は、島民の方々や、来島された方々も参加する一大行事です。私は小さい頃から島にいたので、何度も参加したことがありますが、今年は私にとって大きな変化がありました。紅組の団長として、小学3年生2人、5年生2人のチームを引っ張っていくことになったのです。

私は毎年先輩方が団長として行動するのを見てきました。しかし、見るのと実際にやってみるとでは大きく違いました。私はみんなで一緒に話し合っただけという考えでした。だから、練習時間を話し合いに使うことが多くなってしまったのです。話し合いは練習時間に行わず、ある程度団長が決めるという、先生方からアドバイスを頂いたことで、練習はスムーズに進むようになり、本番に間に合わせることができました。

そして運動会当日、多少失敗をしてしまうことはあったけど、来て下さった島民の方々の声援に背中を押され、何とかやり切ることができました。結果は準優勝でした。悔しくて涙が出ましたが、島民の方々が、「よく頑張ったね。」と声をかけて下さったので、自分がやることはやれたのだと思えました。

私についてくれた団員のみなさんと、アドバイスを下さった先生方、応援して下さい下さった島民の方々に感謝したいと思います。初めて団長になった私がここまでやれたのも、多くの方々の支えがあったからです。

また、来年こそは優勝したいです。もし来年団長になったら、今年の経験を生かして、みんなを引っ張っていけるように頑張りたいと思います。



子供のうた (10/23南日本新聞掲載)

しぜんが作った
しぜんが作った
しぜんが作った
しぜんが作った
しぜんが作った
しぜんが作った
しぜんが作った
しぜんが作った
しぜんが作った
しぜんが作った

(諏訪之瀬島小3年 千明)

子供のうた (11/10南日本新聞掲載)

秋の楽しみ
秋がくる
秋がくる
秋がくる
秋がくる
秋がくる
秋がくる
秋がくる
秋がくる
秋がくる

(諏訪之瀬島小3年 豪陽)

お知らせ！ 新成人を祝う会は、平成31年1月14日(月)
会場：十島村役場(関係の島は、TV会議で放映予定)
出席者：新成人7名、家族、恩師、役場関係者